

湘南文学アラカルト-その2-

今日は本題の湘南文士について話す。資料は鎌倉市深沢図書館の蔵書からだ。この図書館の郷土資料書棚には鎌倉幕府から近代までの歴史文化の書籍や資料が充実している。鎌倉市の中央図書館本館は鎌倉駅近くの御成町にあるが、そこに行かなくても、町はずれのこの深沢図書館で十分である。文学だけに絞っても鎌倉を中心に沢山ありすぎる（図1の本棚）。基本となる本を選び、そこから手をつけることにした。

見つけたこの本(図2) は最初に文士の顔写真があり、鎌倉に住んでいた場所が地図上に示されている。私のような素人でも馴染みやすい。Kが子供時代を過ごした材木座、お大町や今の実家がある扇ヶ谷にも有名な文士の自宅があった事を知った。



図1 鎌倉深沢図書館の郷土歴史文学のコーナーには大量の文献がある

1.文壇資料 鎌倉・逗子

巖谷大四

1980(昭和55年10月25日) 株式会社講談社

筆者:巖谷 大四(いわや だいし)

1915年12月30日 - 2006年9月6日)は、日本の文芸評論家。戦時中日本文学報国会で事務をとる。1945年の終戦後、高見順の誘いで鎌倉文庫の編集者となる。1949年秋に鎌倉文庫がつぶれ、1950年1月に河出書房に入社して「現代日本小説大系」の編集者と

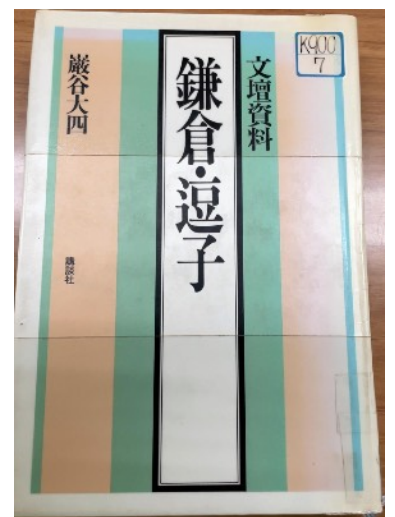


図2 鎌倉、逗子に関する文学活動の書籍

なる。1950-56年『文藝』編集長。『週刊読書人』編集長を務め、1965年から文筆活動に入る。

明治、大正と昭和の文士の顔写真がのっている。これら全員が鎌倉に住所があったわけではない。避暑地として鎌倉に別荘があった人や、病気の療養（まだ結核が流行していたころ）や逗留先の旅館だったり、人それぞれである。何人かは知っているし、本も読んだ記憶がある。私なりに知名度を4段階でつけてみた。

- 0点 名前すらしらなかった
- 1点 名前は聞いたことがある
- 2点 1冊ぐらひは読んだことがある
- 3点 よく読んだ作家

0 北村透谷

3 島崎藤村 読みました『夜明け前』

1 里見淳さとみ とん(本名:山内 英夫)

1 正岡子規

3 夏目漱石 心地よい文学

1 高山樗牛

0 長與善郎

3 小泉八雲 日本のオカルトで有名。耳なし芳一。

1 國木田独歩

0 徳富蘆花 『不如帰ふじよき』は伊香保温泉が舞台で蘆花の終焉の地

0 泉鏡花

0 葛西吉蔵

1 高濱虚子

0 伊藤野枝

3 芥川龍之介 大好き

0 広津和郎

1 萩原朔太郎 「日本近代詩の父」と呼ばれる詩人、前橋市出身

3 有島武郎 鎌倉と縁がある。

1 大佛次郎 『鞍馬天狗』ほか、横浜にゆかりある

0 小林勇

1 久米正雄

3 太宰治 ひねくれ者

3 小林秀雄 文学評論を読んだ

0 中里恒子

0 永井龍男

1 川端康成 純文学、ノーベル賞、逗子マリーナで死去

0 島木健作

0 中山義秀

0 吉屋信子 有名らしい、記念館もある

1 高見順

0 大杉栄

0 岡本かの子

0 小島政二郎

0 林房雄

0 横山隆一

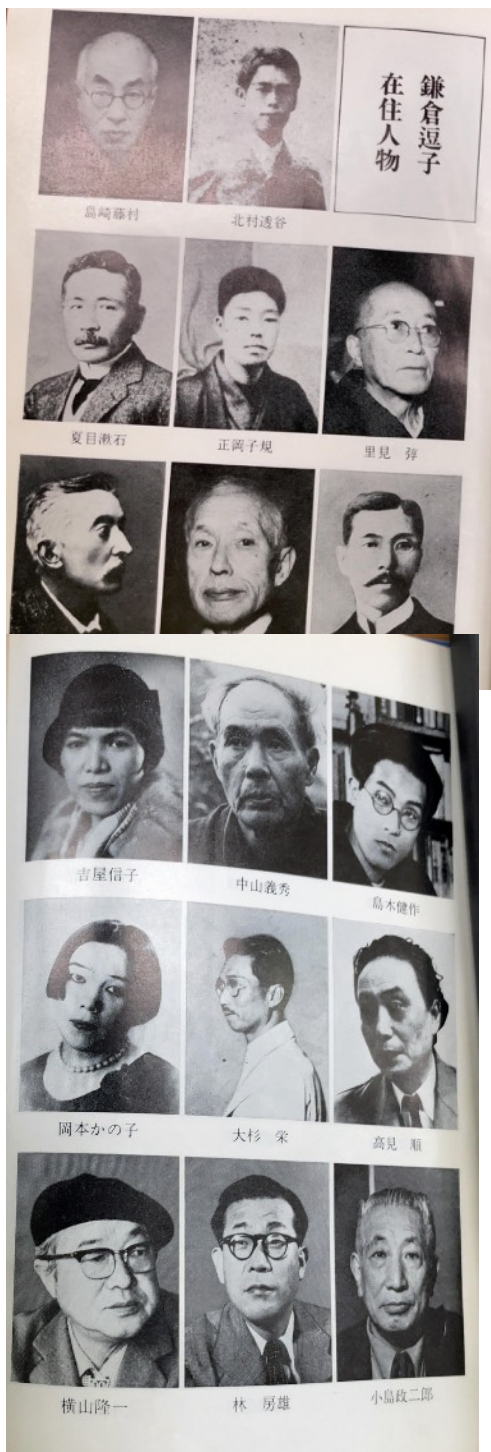


図3 鎌倉、逗子書籍にある文豪の写真

この本の中に鎌倉文庫、鎌倉ペンクラブの会の話が詳しあった。個別会員の住所も載っていた。鎌倉の地図の上にプロットすると妻の実家の実家がある扇ヶ谷には小林秀雄の家があった。

鎌倉文庫(かまくらぶんこ)

鎌倉文士達による第二次世界大戦末期の日本の貸本屋、及び戦後に設立した文芸出版社。文芸雑誌『人間』や女性雑誌『婦人文庫』、一般社会人向け雑誌『社会』、ヨーロッパ文学紹介誌『ヨーロッパ』、大衆文藝誌『文藝往来』などを発行した。

久米正雄

小説家・劇作家・俳人。

夏目漱石の門人。

1936年(昭和11年)には、「鎌倉ペンクラブ」を結成して初代会長を務めた。現在(2023年)も活動がある。第二次世界大戦末期の1945年(昭和20年)には、川端康成らとともに貸本屋「鎌倉文庫」を創設。「鎌倉文庫」は、戦後、出版社として東京に進出し、久米が初代社長を務めている。長谷寺の胸像は、久米の三回忌に鎌倉ペンクラブが建立した。墓所は瑞泉寺。

鎌倉の文士の集まりにおいて久米正雄や里見淳が会長として活動していた。

もう一冊は

2.湘南文学の旅(龍之介・鏡花・康成・晶子・白秋)

著者 湘南短期大学篇

出版社 学校法人神奈川歯科大学

刊行年 平成5年(1993)

サイズ 新書

この本は面白く、湘南短期大学(横須賀)の学生が文豪が実際に住んだ住所まで探し出す。もう100年も前の出来事だから、周りはすっかり変わっている。芥川龍之介が亡くなったのが1927年だから66年も昔のことです。龍之介が書いた手紙や文章から当時住んでいた住所や建物を探す。面白そう。作家の足跡をたどりながら、その当時発表した作品を紹介する。文学部の研究にふさわしい活動です。

湘南短期大学（今は神奈川歯科大学短期大学部）は横須賀市の三笠公園の前にある。大正時代、ここに海軍士官学校があり、龍之介は英語の先生として働いていた。塚本文と結婚した時に鎌倉大町の借家に引っ越した。妻の実家の磯部家は大町に多くの土地を所有している（何も開発できない山林なので早くて手放したい）。



図4 横須賀の湘南短期大学は元海軍士官学校の跡地

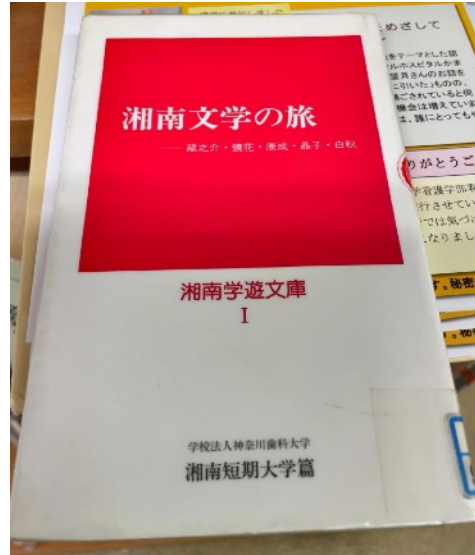


図5 書籍『湘南文学の旅』

~~~~~目次~~~~~

- 1.芥川龍之介と横須賀
- 2.泉鏡花と逗子
- 3.湘南の与謝野晶子
- 4.三崎・小田原の北原白秋
- 5.学長の湘南文学漫步

紙面は以下のように学生が文豪の生活の足跡を訪ね、題材のモチーフの風景を写生するもの。なかなか楽しい企画、文章です。作家が生きていた時代から1世紀あまり経過しているので小説にあった建物、街は随分と変わっている。



図6 書籍『湘南文学の旅』の中身

## ●今月のなごみ 神奈川近代美術館(葉山)の展示会

2/13 晴れ、暖かいが風強い

今日、葉山の海岸沿いにある神奈川近代美術館にて芥川龍之介に関する展示会に行きました。白波が立つ相模湾を自転車で藤沢から葉山まで1時間あまり。青空、富士山、コバルトブルーの相模湾、江ノ島の景色が最高。県立の美術館を葉山にした景色を享受しました。

昔の人の毛筆で書いた手紙や挿絵がとても良い。毎日デジタル生活していると、時に人間臭い手書きに飢える。我思うに原稿用紙に文字を埋める作業は苦しくも楽しい時間であった。今も原稿用紙は小学校で使っているのか？ 文豪の絵葉書が面白い。龍之介は河童の絵をよく描いていた。龍之介自身のシンボルになっている。



**芥川龍之介  
と美の世界**

二人の先達—  
夏目漱石、菅虎雄

2024.2.10 [土] - 4.7 [日]

神奈川県立近代美術館 葉山  
The Museum of Modern Art, Hayama

Akutagawa Ryunosuke and His Aesthetics  
Two Forerunners—Natsume Soseki and Suga Torao

上：芥川龍之介「河童の一生」三十四 色紙 印刷 1927年 山梨県立文学館 蔵  
上右：芥川龍之介「水虎晩歸之図」(部分) 基本書齋 日本近代文学館 / 中右：菅虎雄「河童の思ひ出」(1928年) 上右  
中左：芥川龍之介「河童の一生」(1927年、複製) 上右 / 中左：夏目漱石「河童の思ひ出」(1928年、複製) 上右



図7 芥川龍之介の河童の絵のイラストと富士山と相模湾



右は「水虎晩歸之図」

